

タイトル	全体討論
著者	
引用	北海学園大学人文論集(73): 30-34
発行日	2022-08-31

全体討論

○司会 その他いかがでしょうか。

では、一旦、丸島先生の御発表をこれで終了し、この後、全体の討議の時間を設けたいと思います。

まずは丸島先生、ありがとうございました。(拍手)

予定では4時終了ということですので、あと10分程度、全体の討論、もちろん、今日、御発表していただいたお二人の発表に対して、片岡先生のものも含めて、何かありましたら挙手をお願いします。場合によっては、それぞれに対しての質問に対して、何か伺ってみたいとか、あるいはそれについて聞きたいということも受け付けたいと思います。

○質問者 片岡先生の最初の報告について、質問させていただければと思うのですが、今日の報告は、徳政という現象で古代と中世はつながっているということだと思ったのですが、中世の徳政は、一種の社会保障として出している部分があると思うので、その意味ですでに古代とつながっていて、時間という概念がどこまで関わっているのかは、不確かな部分もあるのではと感じました。ヨーロッパですと、たとえば神話などで時間が円環をなしていると思われる事例があるのですが、結局、農民の世界には、そういったキリスト教的な時間概念があまり普及しなかったようです。教会の中でだけ別の時間が流れていたものが、やがて中世の都市が発達してくると、庶民たちが、教会の鐘の音に合わせて行動するのが合理的だと気がついてきて、神の時間が庶民の時間になっていくとされます。さらに、時計が発達してくると、時間はさらに合理的な概念になり、鉄道の登場とともに国内での統一もなされます。自然の時間の流れから、人間がつくった人為的な時間に移り変わっていくという話を講義でもしているのですが、日本で古代の時間概念から中世的なそれへの変化は、どのように起こるのか、また都市と農村部で、時間の感覚は違うと思うのですが、そのあたりについてお聞かせ願えればと思います。

○片岡氏 まず古代から続いている時間がどこで変わっていくのかという点ですけれども、線分的な時間、あるいは反復する時間というのは、時間の質の部分をつ捉えた概念規定だと思います。一方、直線としての時間であるとか、循環する時間というのは、計量可能な側面をつ捉えています。真木さんの議論の特徴は、この両者の関係を、質的な時間から量的な時間へという推移で捉えていた点だと思いますが、その変化の要因として、合理的思考の浸透を指摘しています。その背景に、貨幣の鑄造があるとも想定されていると思いますが、これは日本にも当てはまるのではないかと考えています。一般的には、鎌倉時代が日本列島における貨幣経済浸透の画期とされると思いますが、そこが、時間認識に関しても古代と中世の分かれ目になるのではないのでしょうか。とすれば、もしかすると、鎌倉幕府が、永仁の徳政令において徳政という概念と契約という経済活動を結びつけたことが、古代から続く徳政の終わりの始まりと言えるかもしれません。

農村と都市の時間ということ言えば、京とその近郊の住人たちは、將軍の代替わりであるからこそ徳政ができるのだという認識に基づいてともに蜂起しているわけですから、それがヨーロッパで言う都市と農村という概念に合致するかは分かりませんが、同じ時間認識の中で生きていたと考えられます。

○質問者 ありがとうございます。

○司会 ほか、いかがでしょう。

○質問者 丸島先生にちょっと聞きたいことがありますけれども、最後の5ページの最後の結論のところで、芸人の音声という感じで、非常にすごく細かくいろいろ音響的に分析して、男性、女性、どっちの声を出してくれて、非常に細かくておもしろいと思います。それで、演技音声の特別なアニメの声まで出しているかもしれないということでおっしゃっていて、それは非常に興味深くて、この音響的なデータだけではなくて、聞いているほうは、例えば息の仕方とか、どのくらい鼻声になったりとか、非常にいろいろな細かい特徴も重なって、プラス、今、音響的なことがあれば、おもしろいことができるのではないかなと思ひまして、そういうことは考

えたことありますか。つまり、例えば1人の役者が女性の声も男性の声も両方出しているのですけれども、聞いているほうは、それを聞いていて、すぐ区別がつくかどうか、人間が区別できるかどうか、そういうのはいかがでしょうかと思います。

○丸島氏 音声で区別がどれくらいできるのかというのは難しいような気がします。発話の内容であつたりとか、周りの人との関係性で、多分、男性役の音声を単体で聞いて、発話内容も分からない状態であれば、男性というふうに聞こえる人はほとんどいないのではないかと思います。対比であつたりとか、発話内容、アニメであれば、もちろん絵などの助けもあると思うのですが、そういう複合的なものが絡み合って、男性というふうに判断されていると思います。

ちょっと余談になってしまうかもしれませんが、これを学生たちに聞いてもらったときに、実は最近は結構男性役を女性がやるというケースがむしろ減ってきていまして、最近のアニメになじんでいる学生にとっては、むしろあまり男性に聞こえなかったという感想を持っている人が多かったのですね。

○質問者 ありがとうございます。

○司会 もうひと方ぐらい。

○質問者 丸島先生にお伺いしたいことがありまして、今日の先生の話に内在的な質問になるかどうかというのはちょっと疑問でもあるのですけれども、私、日本のアニメの声優にちょっと興味がありまして、日本のアニメの声優の特徴として、今日、先生お話しくくださったように、女性が男性の声をやるという、そういう伝統が日本のアニメにあって、それは少し興味がありまして、今日、お話聞いたときに、先生がおっしゃるジェンダーのイメージ、ジェンダー差のイメージということについてお話しになったのですけれども、日本のアニメで、女性が男性の声をやることで、その性差のイメージをつくる、ちょっと複雑なことになってきますけれども、そういう形で、何か女性が男性を演じることで性差のイメージがこう生み出すのに役立ったとか、あるいは日本のアニメの中で、性差のイメージ、女

性が男性の声を出すことでこういうふうにつくられていったとか、そういうことはありますか。つまり女性が男性を演じたからこそそのジェンダー差のイメージが生み出された、ほかのアニメに見られないような、そういう形で生み出されたようなジェンダー差というはあり得るでしょうか。

○**丸島氏** ちょっとお答えになっているか分かりませんが、初めて、少年役を除いて男性役を女性が演じたというのは、わりといつからだというのははっきりしていて、もともとは宝塚的なイメージで女性声優さんを起用したということは言われているのですが、ただ、本当に、では宝塚っぽく聞こえるかという、また別だと思うのですね。もともとかなりファンからの反発が多かったそうで、だんだんそれが受け入れられていく中で、恐らく新しい男性キャラクター像みたいなものがつくられていったのかなということはほんやり考えてはいるのですが、お答えになっているかどうか……。

○**質問者** 女性が演じたからこそ何かイメージはつくられていった部分、鉄腕アトムみたいなのがすごいイメージが、それから碇シンジまで、全部その系列というのか、経路があるのではないかなと思っていました、女性だからこそできた少年のイメージというか。

○**丸島氏** 今回、分析したのは、エヴァンゲリオンの碇シンジを演じている声優さんの音声なのですが、この方がそもそも初めてで、少年役とか青年役も演じているのですが、多分、ちょっとそこと関わってくるのは、セーラームーンのセーラーウラヌスという、ちょっと男装的麗人みたいなキャラクターも演じていて、そこの境目がちょっとあいまいになっているからこそ男性キャラクター像みたいなものができていったのかなと、そっちの専門ではないので、かなり雑なことを言っているとは思いますが。

○**司会** よろしいでしょうか。まだあれば伺いますが。

碇シンジというのは少年ではないのですかね。

○**丸島氏** 少年ですね。14歳ということで。

○**司会** 大人の男役の女性声優っていますか。

○**質問者** もちろん、ドラゴンボールとか。

○丸島氏 ドラゴンボールの孫悟空は、少年役がそのまま大きくなって……。

○質問者 なるほど、大人を含めて全部ね。

○司会 どうもありがとうございました。

では、時間ですので、一旦これで終了ということにしたいと思います。

ともかく今日、お二人、お忙しい中、引き受けていただきましてありがとうございました。大変興味深いお話を聞けました。

どうもありがとうございました。(拍手)